

第 21 回「整形・災害外科 優秀論文賞」のお知らせ

本誌編集委員会では、昨年一年間の本誌に掲載された投稿論文（論究・臨床・手術・経験・症例欄等掲載論文）を対象に優秀論文の選考を行ってまいりましたが、この度、下記の論文が小誌における 2016 年（整形・災害外科 第 59 巻）の優秀論文に決定いたしました。

65 歳以上の高齢者寛骨臼骨折の治療成績

坂越大悟ほか（富山市民病院，整形外科・関節再建外科）

〔整・災外 59：599—604，2016〕（5 号）

外反母趾における内側縦アーチの荷重による

三次元的アライメント変化

渡邊耕太ほか（札幌医科大学保健医療学部，理学療法第二講座）

〔整・災外 59：1241—1245，2016〕（9 号）

選 者 評

2016 年『整形・災害外科』第 59 巻に掲載された投稿論文から、本誌編集主幹 5 名の投票により、優秀論文として上記の 2 編が選ばれました。

坂越大悟氏の論文は 65 歳以上の高齢者寛骨臼骨折に対して手術を行った 11 例 11 関節の治療成績を解析したもので、11 例中 10 例が術前 ADL に復帰という良好な成績であったとのこと。治療が難しい高齢者寛骨臼骨折手術療法のポイントやピットフォールを明らかにした点が評価されました。

渡邊耕太氏の論文は、外反母趾患者足と正常足の荷重時の内側縦アーチアライメント評価を、CT を用いて三次元的に評価したものです。コンピュータ解析によって、外反母趾におけるアライメント異常について新しい知見を明らかにしたことが評価されました。

いずれの論文もきわめて新奇性が高く、優秀論文にふさわしいものと高い評価を受けました。

受賞のこぼ

この度は優秀論文賞に選出していただき大変光栄に存じます。

寛骨臼骨折は交通事故などの高エネルギー外傷の結果生じることが多いとされていましたが、近年は高齢者人口の増加とともに、転倒などの軽微な外傷による脆弱性骨折として生じるケースが増加傾向です。高齢者寛骨臼骨折においては、骨折部の解剖学的な整復だけでなく、早期離床も ADL 再獲得に重要な要素となります。関節面の解剖学的整復が困難な場合の一期的人工物置換術や、低侵襲な経皮的スクリュー固定なども有効な選択肢となります。全身状態を勘案しつつ、多様な選択肢の中から適切な術式を判断するのは困難であり、今後も課題の多い骨折の一つと考えます。本研究の内容が、高齢者寛骨臼骨折に対する治療法選択の一助になれば幸いです。

最後に、本研究にあたりご指導をいただいた澤口毅先生に心より深謝いたします。

坂越大悟（富山市民病院整形外科・関節再建外科）



この度は優秀論文賞にご選出いただき、大変光栄に存じます。私達のグループでは以前より、コンピュータ画像解析による下肢疾患の病態や治療効果の研究に取り組んできました。この研究では三次元的な評価を目指し、CT や MRI データを用いました。下肢においては荷重という因子が病態に大きくかかわります。そのため通常の非荷重条件での撮影に、何とか荷重条件を付加することを試みました。荷重の条件設定やその再現性から画像解析の方法考案まで、まさに試行錯誤を繰り返してきました。その過程では本グループの多くの仲間がかかわってくれました。学会発表のためにディスカッションを重ね、当日朝まで濡れぞうきんのようにクタクタになってスライドをまとめ上げた後輩の姿も思い出します。今回の論文とその受賞は、それら努力の成果が一つの形となったという意味も持つため、大きな喜びを感じております。この場をお借りして皆様に感謝申し上げます。

渡邊耕太（札幌医科大学理学療法第二講座）



優秀論文の筆頭執筆者には、賞状ならびに副賞として金一封・記念品を贈呈いたします。

本誌編集委員会では今後も継続的に各年毎の掲載投稿論文を対象に「整形・災害外科 優秀論文賞」の選考を行ってまいります。読者皆様の活発な研究発表の場として、小誌を存分にご活用ください。

（整形・災害外科 編集室）